

断熱材 評価コメント

◆マットエース リボード (旭ファイバーグラス)



<p>改修現場にて採用した。現場は、居住しながらの工事であったために床下からの施工になったが、効率よく施工ができた。定尺寸法が、あらかじめ根太間のサイズにカットされている。現場での加工が最小限に抑えることができた。製品ラインアップの一部には、根太高さに合わせて切り欠き加工されている。大引きに乗せて挿入することができ、落下防止の役割にもなっている。ある程度の硬さがあり、たわむことはなかった。改修の現場では、根太間が一定でないこともある。その場合、多少きつい幅でも押し込むことが可能な硬さであった。気になる点は、グラスウールの飛散である。室内から搬入する場合、居住者が気にされるのであれば注意が必要。事前の説明も不可欠。</p>	30代	設計事務所
<p>グラスファイバーの欠点が改善されていない。</p>	50代以上	設計事務所
<p>取り付け用の“耳”があれば良いと思います。</p>	50代以上	建設業

◆フォームライトSL (BASF INOAC ポリウレタン)



<p>新築・リフォームともに標準仕様で採用しています。天井(屋根面)への吹き付け工事前に大工工事として、タイベックシルバー(旭・デュボン フラッシュスパン プロダクツ)で空気層を設けています。採用当初は、空気層確保のために屋根タルキの下端に3mmベニヤを捨て張りしたり、通常の防水透湿シートを張ったりしていましたが、タイベックシルバーとの併用してからは、遮熱効果もあって、より断熱性が上がったと思います。気になるのは、現場発泡ウレタン断熱材全般にいえることですが、柱や梁などに直接吹き付け、接着させることで、後々のリフォーム時などに廃材を出すとき、現在の段階では分別がかなり困難ではないかと思えます。メーカー側には、木材とウレタンフォームを分別する処理方法を開発していただきたいです。引き渡ししたお施主様からは、「外はかなり寒い冬の日でも、この家は一日中、蓄熱暖房1台で暖かい」と、ありがたい言葉もいただいています。</p> <p>【BASF INOAC ポリウレタンからの回答】今後、住宅の省エネ化はどんどん加速していくと思われれます。断熱材だけでなく、遮熱材を用いることでその相乗効果を利用されている点はお見事です。ご指摘のございました、木材との分別の件については、今後、問題になることが十分に予測されます。また、リユース・リサイクルについても省CO2の観点から、業界全体で取り組むべき問題だととらえております。現在、業界(日本ウレタンフォーム工業協会)で回収/リサイクルシステムの構築に取り組んでおります。弊社も業界メンバーの一員として、積極的に回収/リサイクルシステムの構築に取り組んでまいります。</p>	30代	工務店
<p>ほかの方が書いておられるように、現場発泡ウレタン断熱材については廃棄物処理が最も気になるところです。以前から性能は評価していましたが、この時代に廃棄物処理を無視して採用することはできません。例えば、安価なシートを下地にして吹き付け、廃棄時にはシートを引っ張り出すようなことはできないものでしょうか。廃棄物処理の方法が解決できれば、売り上げは急速に伸びるでしょう。</p> <p>【BASF INOAC ポリウレタンからの回答】本製品の特徴の一つとして、接着効果があります。躯体に接着することで気密性を確保します。構造躯体の経年変化(季節変動による木材の伸縮など)に追随するには接着効果が欠かせません。「接着効果によるメリット>>分離時におけるデメリット」と考えております(痛痒しの部分ですが…)。ご指摘の通り、シート状の物(透湿シートなど)に施工することで分離はしやすくなります。吹き付ける対象物を分離しやすいものにしていただくことは、ご提案いたしております。</p>	50代以上	その他
<p>手軽に気密性もとれて高断熱にできるので使用したが、皆さんも書かれている通り、環境対策が課題でしょう。施工直後はミストがたくさん出るが、2~3日で治まります。いろいろな場所にミストが付くので、この処理がポイントだと考えている。リフォームにも最適でしょう。ただし高断熱にすると価格がとて上るので、寒冷地では付加断熱に使う手もあるかと思う。</p>	50代以上	設計事務所
<p>弊社のプラントにおいても、居住空間とのアイソレーションとしての「断熱」というニーズがある。カッティングされた断熱材が施工しにくい出隅・入り隅のある壁においては、このような製品はフレキシブルな施工が現場合わせで行えるので、メリットだと思う。</p>	50代以上	その他建設業
<p>グラスウールや、パネル式の断熱材に比べて機密性・断熱性が高いので、現場の特性に合わせて使用している。梁・柱をあらわしにするような現場の場合は、施工厚の関係でどうしてもウレタン施工でなければならない時などに対応している。また、熱には弱いので、施工時の火の気には十分注意しなければならない。</p>	20代	住宅会社

◆スタイロエースII (ダウ化工)



<p>断熱材としては、定番の製品だと認識している。加工性がよく、コスト的にも手ごろなので、施工サイドから特に提案がない場合は、この製品を採用する。ただ、施工者のなかには、加工時に粉が出るのを嫌って、他の断熱材にしてほしいと言ってきたところもあった。その点では、ほかの断熱材についても恒常的に採用できるかどうか、検討しなくてはならないと考えている。</p>	40代	設計事務所
<p>北海道では一般的な製品。価格が安く、施工も良いのでよく使用しています。性能的にも安定しているので、安心して使用できると思います。ウレタンに比べると熱伝導率が若干高めですが、厚さを調整して採用しています。</p>	40代	設計事務所
<p>コンクリートを無垢で打設したくない箇所(基礎デッドスペース)に使用しました。型枠を組んで施工し、ダメ穴をつくることを考えれば、安価・工期短縮になり、また構造担当者もマスコンでないので納得してくれました。</p>	40代	建設業